

## 川崎市青少年フェスティバルに参加して

大野 明

3月4日（日）に川崎市が主催する川崎市青少年フェスティバルが例年同様川崎市とどろきアリーナにて開催されました。川崎市のこども会連盟、ガールスカウト、ボーイスカウト、海洋少年団など市内各団体がそれぞれ趣向をこらしたブースを設営し、親子連れなど多くの市民が訪れました。当教室は平成22年から「おもしろ科学実験教室」として参加しており、今回で8回目となります。このフェスタでは唯一の「科学教室」を謳い、理科好きの子どもを育てる一翼となっています。本年も昨年同様、アリーナエントランスに十分なスペースをいただき、「海洋」「空気」「光学」「電気」の4教室を設け、先生・サポーター合わせ22名が参加しました。

10時の開会式ではフェスタ実行委員会の若い元気一杯の発声がアリーナ内に響きわたりました。「かながわ子ども教室」の揃いの黄色ベスト集団もひととき目を引いていました。開場と同時に来訪者が続々とブースを訪れ、終日「息をつく暇もない」状況が続きました。小学校低学年と幼稚園生などの親子連れが大部分であり、「すごーい!」「分らなかった!」など、あちこちで歓声が沸いて来訪された皆さんは十分に楽しんでいました。今回の当ブース来訪者数は子ども633名、大人467名の合計1,100名でした。

川崎市の福田市長も開始早々に来訪され、空気教室で大気圧や風船などの実験を熱心に体験されるなど感動しておられました。海洋教室では「海のことが大好き」という青年男性が訪れ、「しんかい6500」「探査船ちきゅう」「海の深さと生息する魚の種類」などについて専門的な質問をされていました。また、4才の幼児も「絶対に実験がしたい!」と頑張っていました。電気教室



ではコンデンサーや発電機といった高学年で習う教材についても2年生などでも良く取り組むことができていました。私が加わった光学教室では万華鏡に子どもたちも「キレイ!」と興奮、なかなか次の子に譲らないなど賑わいました。セロテープを重ねて作った無色の昆虫などの絵が偏光板でキラキラと多色に輝くのも驚きだったようです。ところで、来訪した子どもたちにはカブト虫よりクワガタの方が人気があるようでした。私が子どもの頃は断然カブト虫でしたが・・・これは機会があればアンケートを取ってみたいところです。

福田市長、二つの風船の空気の移動に大いに興味

今回はホワイトボードを使い教室ビデオを放映しました。ビデオを見た元住吉小学校児童の教育熱心なお母さんや、実験に熱心に参加された平間小学校児童のお母さんなどから、「教室はどこでやっているのですか?」と質問が続き、当教室のホームページを見るように勧めるなどで対応しました。ビデオはインパクトが十分に効果的でした。また海洋では「ゴルフをするので家にゴルフボールはあります。死海の実験を自宅で行いたい方法が教えて欲しい」との質問があり、「水100gに対して塩35g（濃度26%）」と説明し感謝されました。

来場した子どもたちは皆順番を良く守り、実験後は「ありがとうございました」とキチンと礼を言っていた子が多くいて、対応していて気持ちの良いものでした。日本の将来もまだまだ満更ではない、と思いました。

最後になりましたがブースへの十分な机、椅子の配置や機材の宅急便受入れ、発送など川崎市スタッフのご協力に感謝致します。